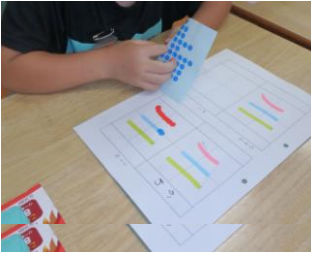


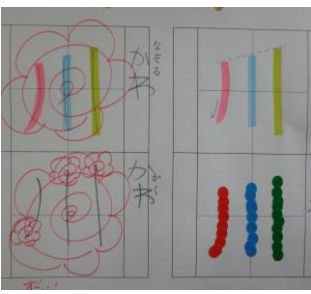


学校名 (学級の障 がい種別)	<p style="text-align: center;">K 小学校 知的障がい特別支援学級</p>	本事例の 指導の 形態	<p>国語科 「漢字の学習」</p>
<p style="text-align: center;">在籍児童 の実態</p>	<p>【一般的な実態】 ・学習の流れがわかると集中して取り組むことができる。</p> <p>【国語科に関する実態】 ・ひらがなは全て読むことができるが、文章は拾い読みになるので意味を理解するのは難しい。 ・ひらがなは9割程度書くことができる。</p>	<p style="text-align: center;">目標 ・ 指導 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の成り立ちを絵で確認したり、シールを貼ったりして、漢字の形を捉え、『漢字を読む』ことができる。 ・漢字の形を捉えて、『漢字を書く』ことができる。
<p style="text-align: center;">指導の経過・ 工夫点・子ども の変容</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>【指導の実際及び工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『漢字の読み』の学習では、漢字の基となった絵を見せ、漢字の読みを確認する。 ○『漢字の書き順』では、色分けした漢字の手本を「①指でなぞる」「②シールを貼る」「③鉛筆でなぞる」「④自分で書く」の順で書いていく。 ・ひらがなを書く学習では、はらいの方向や線の向き・長さなどひらがなの形を捉えるのが難しかったため、手本を見ながら、シールを貼ることで、触感でも線の動きを確かめられるようにした。 ○ラミネートしたマスに、ホワイトボードマーカーで練習する。 ・違うと思ったときに、すぐに消せ、鉛筆より力が入りやすいようにした。 ○ドリルノートに練習する。 ○一日、一つの漢字に絞り、学習する。 </div> </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div> <div style="margin-top: 10px;">  </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>【子どもの変容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『漢字の書き順』では、色分けした漢字の手本を「①指でなぞる」「②シールを貼る」「③鉛筆でなぞる」「④自分で書く」の順で行ったことで、簡単な字でもよく見て、丁寧に、ゆっくり形を確認しながら書くことができた。 ・「かわ」と言いながら書いたり、「1、2～」と画数を言いながら書いたりする姿がみられるようになった。 ・「この字は3画だ」と画数の意識もついてきた。 ・同じ流れで取り組むことにより、次にすることが明確になったので集中して取り組むことができた。 ・気をつけるポイント(「ここが一番長い」「斜めになってる」など)に、少しずつ自分から意識が向くようになった。 </div> </div>		
<p style="text-align: center;">成果と課題・今 後の方向</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『漢字の読み』では、拾い読みではなく、意味のまとまりとして読めている。 ・毎日、前日までに学習した漢字のテストをしているが、習った漢字は全て読むことができ、書くことができる。 ・漢字の学習を楽しみにするようになった。 ・「田と口はここ(周り)が似ているね。」など形を意識した言葉が増えた。 ・手本をなぞる時点で、「しゅっ」「ピン」などはらいやはねを意識できてきた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとつの読み方のみ覚えている。例:「上」→「うえ」とは読めるが、「上-る」→「のぼ-る」とは読めない。教える際に扱ってはいるが、定着まではいっていない。 <p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画数が多くなってきたら、全てシールを貼っていくのは難しいので、今まで習った部分の組み合わせなどを意識させていく工夫が必要である。 		

